

■吉野地区（隈川）年表（「吉野会」開催まで）

大正 2 年	1913		釧路の加藤直次郎がこの地（吉野）を放牧地として払下げを受け、小作人として伊藤作三が入地、2 反歩程開拓をした。（日吉百年史）
大正 4 年	1915	3月20日	十勝国帯広町笠原柳市が放牧場として貸付許可を受け、宮原養一が管理小作人として佐藤園吉を伴い開拓の鋤を入れた（日吉百年史）
			吉野 2 3 3 番地に吉野共同墓地・吉野火葬場設定（常呂町史）
大正 5 年	1916	3月	愛媛県周桑郡より黒瀬広之助が同じく農場地として貸付許可を受けて入地爾来小作人の募集に努めた（日吉百年史）
大正 6 年	1917	5月	登位加（登）の直江伊三男らと計り部落共同で仁頃に通ずる刈分道路を開き、秋には日吉間の刈分道路も開かれた（吉野 5 0 年のあゆみ）
		秋	隈川（吉野）・日吉間道路開通
			熊坂寅治によってはじめて農耕馬を購入、畜力による農耕作業が行われた。（吉野 5 0 年のあゆみ）
大正 7 年	1918	3月	隈川・仁頃間道路を開削〔常呂村史〕 仁倉部落有志と計り隈川仁倉道路を開いたが、いずれも刈分道路を脱しないものであり、十分な交通も出来なかった（日吉百年史）
		10月15日	（隈川神社）隈川で天照皇大神と札幌神社の標木を建立。 （吉野）春秋の祭を行ってきたが分村によって独立したことにより社殿建立の希望が強く、翌年 8 月本殿造営にかかり 1 0 月竣工式と遷宮式を行い、祭神として 5 柱の分霊いただき、ここに部落民念願の鎮守が完成した。（日吉百年史）
		12月	吉野部落は元手師学部落に属していたが、手師学村より分離して一部落を形成した。簡易教育所を設置（常呂村史・日吉百年史）
大正 8 年	1919	4月24日	入地者の増加につれて子弟教育を 1 日もゆるがせに出来ない事から学校の開設を要望してきたところ、手師学尋常小学校所属隈川特別教授場として設立認可され、同年 5 月 8 日笠原農場事務所を仮校舎として授業を開始した。（日吉百年史）
			隈川特別教授場は堀建草葺 1 2 坪、児童 1 8 名（吉野・登小閉校記念誌）
		8月	開校時、通学区域は手師学村隈川及び登位加の 2 部落（吉野・登小閉校記念誌） 隈川地区本殿造営着手（1 0 月竣工式、遷宮式）
			北見の皆川愛次郎氏が中央橋付近に経木柱工場操業。隈川利用して上流の松材切り出し、流送、水車動力で製造、北見へ馬車陸送、職工 3 0 余名。原木の関係により 3 年で解体（吉野 5 0 年のあゆみ）
			薄荷の栽培面積拡大に伴い工場建設必要の声が高まり、地区住民共同出資で薄荷蒸留工場建設、草葺き 1 5 坪の掘っ立て小屋（吉野 5 0 年のあゆみ）
大正 9 年	1920	6月15日	青年の教育向上のために青年団組織を必要とする声が高まり、隈川青年団の規約制定、創立を見るに至った。団員 1 8 人（吉野 5 0 年のあゆみ）
大正 1 0 年	1921	9月11日	笠原柳一氏が校地として土地 5 反歩を寄贈、新校舎建築に着手 （吉野・登小閉校記念誌）
大正 1 1 年	1922	3月10日	隈川特別教授場保護者会設立（吉野・登小閉校記念誌）
		12月27日	隈川特別教授場新校舎落成、木造平屋建 3 2 坪（吉野・登小閉校記念誌）
大正 1 2 年	1923		遠藤栄次が試験的に 7 畝を造田したことに始まり、米は北限地方といわれるこの地方でも若干自家用米の水稲を作付けしている。（日吉百年史）
大正 1 3 年	1924		北登の渡辺隼人氏が経木工場の水車を修理して馬鈴薯澱粉工場操業、原料不足と価格暴落のため 3 年で閉鎖（吉野 5 0 年のあゆみ）
大正 1 4 年	1925	6月	隈川神社建立の決定により、天照皇大神と札幌神社の標木を手師学村トイカ 5 5 3 番地に移設。（ところ文庫 1 0 常呂町歴史散歩）
		10月	隈川神社の社号を受け、社殿造営、竣工、遷宮式〔常呂町史〕
昭和 2 年	1927	4月1日	隈川特別教授場が隈川尋常小学校に昇格（常呂村史）
			町村道仁倉・隈川間、登位加・仁頃間道路完成〔常呂村史〕 隈川・日吉間、隈川・仁倉間道路が町村道に昇格、本格的に道路開墾、昭和 5 年までの 4 年間で測量・工事、地区内を通じる走路完成 （吉野 5 0 年のあゆみ） * 「常呂村史」との食い違いあり

昭和３年	1928	2月18日	隈川女子青年団発足 隈川・手師学間道路竣工（常呂村史）
昭和４年	1929	4月	手師学村字登位加北１線に属する植民地約２８０町歩解除・払い下げとなり、翌５．６年から移民増加（常呂村史） 隈川２４４番地に墓地設定、火葬場設置
昭和５年	1930	1月26日 6月14日	隈川神社境内に「宮原養一氏尊志記念之碑」建立 隈川神社拝殿造営（３月１０日起工）〔常呂町史〕 隈川で「馬頭観世音菩薩」の木標を祀る
昭和８年	1933	7月5日	隈川特別教授場校舎増築落成、１３坪半（吉野・登小閉校記念誌） ＊大正１５年：玄関増築 昭和４年：便所増築
昭和１０年	1935	6月27日 7月28日	隈川で「馬頭観世音菩薩」の石碑建立 隈川尋常小学校に校旗寄贈される（吉野・登小閉校記念誌） 薄荷がピークで相当量あげ、世にいう薄荷成金という程の景気となったが、昭和１７年頃より昭和２２年にかけて戦時の食糧増産に切り替えられたため、殆ど種取り程度に栽培し、昔の様相はなくなった（日吉百年史）
昭和１１年	1936	8月13日 9月25日 9月30日 10月26日	隈川青年学校開校〔常呂村史〕 隈川尋常小学校、改築竣工〔常呂村史〕 隈川尋常小学校校舎移転及び増築工事落成、４６坪半（吉野・登小閉校記念誌） 隈川尋常小学校門柱の寄贈設置を受ける（吉野・登小閉校記念誌）
昭和１３年	1938		隈川尋常小学校の年度末在籍者数８１人、児童数最大（吉野・登小閉校記念誌）
昭和１６年	1941	4月1日 8月下旬 10月25日	隈川尋常小学校から隈川国民学校に改称（吉野・登小閉校記念誌） ３日間の大雨で堤防決壊、刈り込み前のハッカ、豆、その他作物に甚大な被害。川の様相が一変し、山際に移行。被害約３町歩（吉野５０年のあゆみ） 字名地番改正により「隈川」から「吉野」に変更（常呂町史） ＊昭和５０年の「北海道地名地誌／日本地名地誌大辞典」の調査回答で「入植者に四国県人が多く、この地域が四国の吉野川流域の景観に似ているため、吉野と命名」の記載
昭和１７年	1942	4月1日 12月	隈川国民学校から吉野国民学校に改称（吉野・登小閉校記念誌） 隈川小学校に裁縫室（青年学校）落成、１３坪半（吉野・登小閉校記念誌）
昭和２２年	1947	3月 4月1日	吉野青年団、吉野女子青年団を合併、団員数５０余名（吉野５０年のあゆみ） 吉野国民学校から常呂村立吉野小学校に改称（吉野・登小閉校記念誌）
昭和２３年	1948		でん粉に脚光、町内各地に澱粉工場建設。根本工氏他３人共同出資で吉野澱粉工場建設操業、原料不足・価格暴落のため３年で閉鎖（吉野５０年のあゆみ）
昭和２４年	1949		吉野地区全戸に共同聴取施設をする様働きかけ、これが完成を見るにおよび部落内の連絡は勿論、農協との連絡も出来、農業経営に大きな助けとなった。（日吉百年史） 北海道電力が吉野南部地区に電気施設設置、通電（吉野５０年のあゆみ）
昭和２５年	1950	3月	吉野小にラジオ共同聴取施設設置（吉野・登小閉校記念誌）
		11月1日	常呂町立吉野小学校に改称（吉野・登小閉校記念誌）
昭和２６年	1951		豊川・日吉・吉野火葬場の廃止、常呂火葬場に集中葬送（常呂町史）
昭和２７年	1952	11月11日 12月22日	登小学校開校に伴い、吉野小学校通学区域は吉野地区のみ（吉野・登小閉校記念誌） 福山・日吉・吉野（東部・西部地区）・登地区電気導入組合設立、電力供給。常呂町青年団体協議会の組織替えで吉野青年団退会（吉野５０年のあゆみ）
昭和２９年	1954	7月7日	日吉・登・吉野地区通電〔当直日誌〕 昭和２９．３０年の２ヶ年で吉野・登間の道路完成（吉野５０年のあゆみ）
昭和３０年	1955	12月	吉野小に水呑場新築（吉野・登小閉校記念誌）
昭和３１年	1956	11月21日	吉野小校内水呑場に井戸ポンプ取付（吉野・登小閉校記念誌）
昭和３２年	1957	10月末 12月8日	昭和３１年５月発生の水害で流失した橋の復旧工事完了（隈川流域：小貫橋清水橋・吉野第一号橋）（広報ところ） 日吉地区（日吉・福山・吉野・登）青年団連絡協議会、常呂町青年団体協議会から独立、日吉地区連絡協議会創立（昭和３３年に復帰）
昭和３３年	1958	7月11日	吉野小に農村電話設置（吉野・登小閉校記念誌）

			常呂町青年団体連絡協議会に再加入（吉野５０年のあゆみ）
昭和３４年	1959	11月7日	吉野小学校僻地集会室(体育館54坪)落成式（７月２日着工）（広報ところ）
昭和３６年	1961	4月11日	吉野小にテレビ施設設置（吉野・登小閉校記念誌） これがきっかけで次々にテレビ施設設置、昭和４０年には全戸に受像機設置 （吉野５０年のあゆみ）
		12月4日	吉野小学校新校舎落成、１５２．２８㎡（僻地集会場を除き全面新築） （１２月１０日落成式）（吉野・登小閉校記念誌）
		12月6日	吉野小水呑場に水道設置（吉野・登小閉校記念誌）
昭和３８年	1963	8月17日	同年6月に発足した青年会議会員が吉野小慰問、図書・ノート・キャラメル 贈呈、会員製作の８ミリ映画会上映（広報ところ）
		9月	吉野集会所完成 ＊昭和２８年公布の青年学級振興法による冬期間の女子家事（和裁・洋裁・ 編み物）研修所として活用。昭和４４年度に吉野青年学級閉鎖 （吉野・登小閉校記念誌）
		12月20日	吉野小に給食室新築、２坪（吉野・登小閉校記念誌） 距離的・経済的事情で吉野青年団が常呂町青年団体連絡協議会から退会 （吉野５０年のあゆみ）
昭和３９年	1964	8月下旬	大雨が３日間降り続き、昭和１６年を上回る大水害。刈り取り前の畑が殆ど 流される（吉野５０年のあゆみ）
		12月	今までの共同聴取を廃止し、各戸に電話受話器を据え付け、常呂市街との通話 可能に（吉野５０年のあゆみ）
昭和４０年	1965	2月3日	吉野で「地神」の石碑建立
昭和４１年	1966	4月1日	吉野老人クラブ設立（昭和５３年３月解散）（常呂町老連４０年誌）
		6月29日	台風４号による被害。低温による冷害、過照による温害凶作（共立百年史） 吉野・日吉地区の隈川と常呂川が氾濫、橋梁１ヶ所流失（広報ところ）
		10月31日	吉野『５０年のあゆみ』（常呂町吉野）発行
昭和４７年	1972	11月1日	吉野小の学校暖房を全面的に石油暖房に切替（吉野・登小閉校記念誌）
昭和４８年	1973	4月10日	吉野小の水道架設工事完成（水量不足、汚濁のうれいなし） （吉野・登小閉校記念誌）
		8月4日	吉野小にカラーテレビ設置（吉野・登小閉校記念誌）
昭和５０年	1975	5月9日	日吉小と吉野小との合同学習実施（５月２回、９月２回、１０月１回、 １１月１回、３月１回）（日吉小８０年史）
		12月25日	日吉小・吉野小・登小学校の統合打ち合わせ（日吉小８０年史）
昭和５１年	1976	3月11日	日吉小へ吉野・登小から備品搬入（日吉小８０年史）
		3月23日	吉野小学校、閉校式（年度末在籍者数２人 卒業者数総計４０３人） （吉野・登小閉校記念誌） ＊「あのと時の常呂・写真館」VOL５４で詳細を紹介
		3月	吉野・登小小学校閉校に当って『思いで』（常呂町教育委員会）発行
昭和５２年	1977	1月17日	広域簡易水道（吉野浄水場）通水式（４月から給水）
昭和５４年	1979	7月15日	旧吉野小学校で「吉野会」開催（北見市在住の旧吉野出身者の「吉野会」が 全道に呼びかけ約120人参加）（広報ところ） ＊「あのと時の常呂・写真館」VOL７３で詳細を紹介